



サポートポールについて

ひさしと安全性

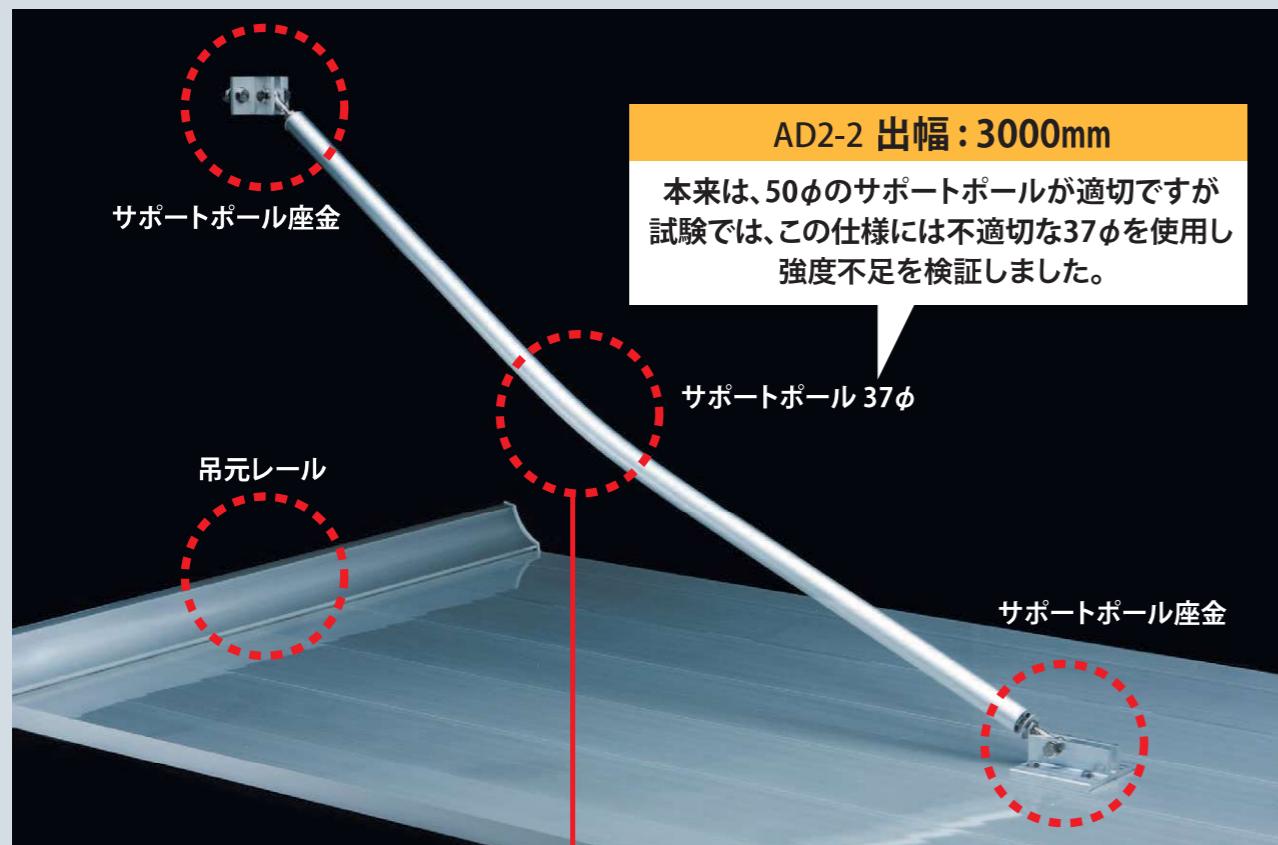


サポートポールの安全性を考える

サポートポールが安全性の向上に有意義であることは言うまでもありません。見た目は頑丈で、「取り付けただけで安心する」と言った声も聞かれます。しかし、屋外での使用において、ひさしには思いがけない事態に見舞われる可能性があります。「サポートポールさえつけていれば安心」と考えていると、大変な結果を招くことにもつながりかねません。

●アルフィンが出幅に合わせたサポートポールをご用意していますので、安心してご使用いただけます。

強度不足のサポートポールを用いた風圧試験結果



下部(軒天)からの風圧試験(鉛直上向き荷重)によって曲がったサポートポール。

しかし 曲がった理由は、サポートポールの強度不足だけではありません！
アルフィンが考えるひさしの安全性とは、

吊元レールの
強度

サポートポールの
強度

サポートポール座金の
強度

アルフィンひさしの
安全設計

アルフィンのほとんどの製品はサポートポール不要※の強度設計を施しています。

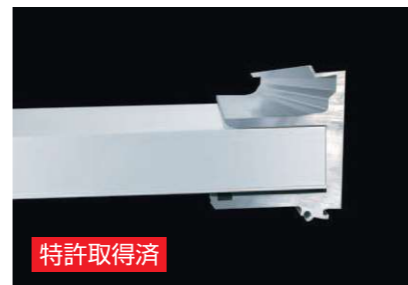
※取り付けの躯体下地とひさしの出幅により、サポートポールが必要な場合があります。
※下地の強度不足等による躯体破損・事故等の損害についての責任は応じかねます。

ひさしを安心してご使用いただくための強度対策

アルフィン・ブランドでは、すべてのひさしにおいて安全性を追求。様々な角度から検証し、研究開発に取り組んでいます。サポートポールだけでなく、ひさし本体と吊元レール、座金に至るまで材質、構造を徹底的に強度対策することが、安全性と信頼の証としています。

吊元レールの強固化

吊元レールを一体型にすることにより、パネルと吊元レール、そして躯体とのさらなる強度を実現しました。

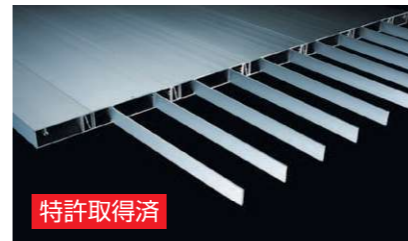


特許取得済

一体型構造設計の吊元レール AD2

ひさし本体の強固化

さらなる強度を要望される場合は、下記のような仕様も可能です。



特許取得済

本体パネルにフラットバーの内蔵も可能

ひさしサイズや設置場所別によるサポートポールの強固化

商品写真は
原寸大です



22φ
出幅~1000用



50φ
出幅 2001~3000用



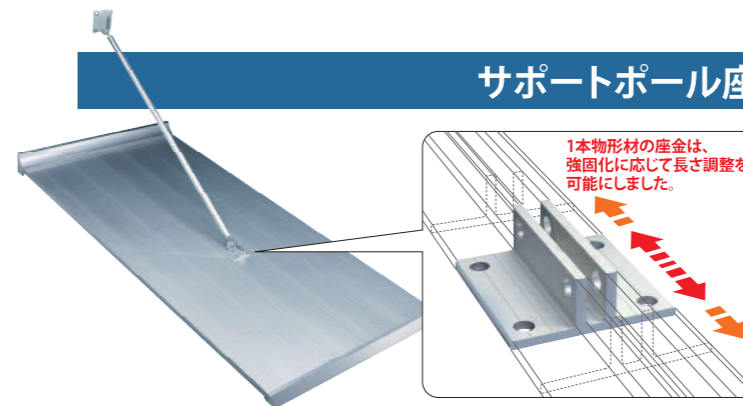
37φ
出幅~1001~2000用



75φ
出幅 ~4000用

※ADシリーズの場合

サポートポール座金の強固化



座屈対策に
自信あり!

他社のサポートポールと比べてみてください。

長い棒や柱も同じですが、ひさしの場合にはひさし本体に対して縦方向に圧縮荷重を受けたときに、限界値を超えると横方向に変形する現象を「座屈」と言います。この座屈の対策は、サポートポールを取り付けたから大丈夫!というわけではありません。サポートポールの強固化と、ひさし本体、吊元レールなど、すべての強度の最適化をクリアすることで安全なひさしと呼べるものです。ひさしに関しての座屈や強度対策に関してのご質問などお気軽にお問い合わせください。